

中齋塾東京フォーラム  
平成 30 年度 第 9 回講話

平成 30 年 10 月 13 日  
於 湯島聖堂

おはようございます。先日、明治神宮で奉納吟詠に行きましたら、女性はだいたい和服で男性は必ず上着を着用しネクタイをきちんと締めておられる。今日の中齋塾フォーラムもネクタイをしている方がやはり数人おられる。私は最初から持ってこなかったのですが、時代はどんどん変わるのだなと思いました。日本のように湿度が高い国でネクタイがあること自体おかしいと思うのですが、ネクタイを着用する・しないという、その常識が変わってきました。

昨日タクシーに乗っていたら、「お客さん、すみません。おつりで千円札は無いのですが」と言われました。運転手さんに「どうして」と聞いたら、「何となく一万円札を出しそうな気がしたもので」と。「大丈夫、千円札ありますよ」と言ったら、ほっとしていました。何でそんなことを聞くのかなと思ひ雑談してみたら、最近はつり銭を用意しない客がととも増えた。スマホで払う人、腕時計で払う人がだいぶ増えました。でも 1 割か 2 割かなと思ったら、「いえいえ。現金で払う方は半分いるかいらないか」と。タクシーに乗って、現金で払うのは当たり前だと思っていたら現金で払う人がどんどん減っているとのことでした。

過日、みずほ銀行の株主総会で社長が喋った科白と非常に似ていました。話があちこち飛びますけれど、みずほ銀行曰く、お仲間銀行さんたちは昔のようにお金を貸して金利で食べていける時代は終わった。私共の銀行も売上げ全体の内、お金を貸して商売をしていく分野は半分以下になりました。半分以上は金貸し業では、もう食べていませんで、他のことで食べていますと、なんとも危うい科白を言うものだなと思ったが、どんどん世の中が変わってきている。因みに、みずほ銀行はシティバンクの中で一番成績の悪い銀行ですから、一番成績の悪い銀行でも利ざや稼ぎは終わったと言っているわけです。それでタクシーに乗ったら、現金でお金を払うのはお終いと言っています。

さてそうなりますと、自分の常識は常に疑わなきゃいけないと最近は思っています。自分の常識で判断していると、そういう時代に入っているということが分からないし、自分の常識そのものが通用しなくなっている。

この間、佐藤一斎の故郷の岐阜県恵那市岩村に行きました。そしたら楷の木がだいぶ大きくなっていて、佐藤一斎顕彰会の会長が「これは湯島の聖堂から頂いた楷の木がこんなに大きくなりました」と、湯島聖堂の宣伝をして頂いていた。非常に良いことだと思いま

した。話があちこち飛びますけれども、佐藤一斎のお弟子さんに山田方谷がおります。山田方谷のお弟子さんの三島中洲が「学を論ず」という詩を作りました。その詩の中に「人間としての基本的な道は未来永劫変わるものではない。しかし世の中のルールはどんどん変わっていく。常識も変わっていく。だから自分の常識を時々立ち止まって疑ってみたほうがよい」というふうに書いております。それで文化の香りの高い方は歌にしたり、俳句にしたり、心得のある人は漢詩を作ったりという文化の香りにのせて説明しています。

いま申しあげたのは、中斎塾フォーラムのメンバーの方は、文化の香りが漂ってくるのが良い。文化の香りというのは、縦の学問と横の学問と両方混ざります。いま話したものは横の知識の話です。その中に縦の学問がしっかり根付いていれば、横の学問から得た知識はスッと入れられる。ということで横の学問と縦の学問をいたしましょう。

私の常識がもう遅れてきているなと思ったから、余分なこと申しあげました。私はスマホを使ってはいますが、これでお金を払ったことがまだありません。

大野さん、中国では現金で払おうとしたらスマホでなければ受け付けませんという店が凄く増えているそうですが、大野さんはスマホで決済するのですか。

大野参与ーしないです。

大野さんは、お幾つになられましたか。

大野参与ー後期高齢者です。

有難うございます。後期高齢者になる寸前では？…なったのですか。

大野参与ーカードが来るじゃないですか。あれは、よくないですね。

やっぱり引導を渡されたみたいな感じになるのでしょうか。

大野参与ー高齢者であることは間違いないけれど、気持ちは青年だと思ってやっていたのに後期高齢者と書いてある。それで保険も従来の保険証は返さなきゃいけません。

国はけしからんですね。

大野参与ーこっちはまだ一生懸命に頑張っているのにと感じます。

大野さんは、今までいっぱい税金を払っていますよね。過去にどれだけ税金を払ったかによって選挙権をかえるとか、選挙制度も最初はそうでした。税金たくさん払った人に選

挙権を付与したわけだから。…そんな話をしていると広がるから次にいきましょう。

明治神宮で奉納吟詠にご参加いただいた方は有難うございました。それから 11 月 18 日に群馬郷学会で講演会がありますが、猪瀬理事長に講演をお願い致しました。唯識学の話をしていただきます。よろしくお願い致します。

いま久しぶりに執筆を始めました。中江藤樹を書こうと思って、記念館に何回行ってもイメージが湧かない。あれだけ聖人君主で、汚れひとつ無しみたいたと、なかなか共鳴しあわないもので書けない。気がついたら 3 年書けなかった。それで佐藤一斎に切り替えようと思った瞬間に何か上からおりてきて一気に書ける。ですが事務局が日常業務をやりながら原稿作業もやっていますので大変困っています。

佐藤一斎が面白いなと思ったのは妖怪変化好きですね。亡霊についての考察とかね。そんなことがぼんぼん出てきます。故郷の天瀑山に大きな鷲がいるそうで、一斎の漢詩に「北冥に異鳥有り、其の名を善知鳥」と書いてある。これは荘子の書物に「北冥に魚有り、其の名を鯤（こん）と為す」とあります。面白い人だなと思いましたが、その面白そうな話を学者はあまり紹介をしていない。してあっても軽く書いてあるだけなので、私が書く佐藤一斎は、人間がどういう所でつまずいて、どういう失敗をして、どうやって乗り越えてきたか。それで、どうして学問で身を立ようと思ったかを書いていくつもりです。学者が書くと、故あって学問の道に励むことを決意したと格好よく書きすぎる。忠久先生は怒るかもしれないけど、私は素人が見てこの人間は面白いねと関心を持ってもらえればと思います。また佐藤一斎の教えに触れた弟子たちが、幕末に敵味方相争って明治維新の思想的な根拠になったのか。なぜ維新ができたのか。佐藤一斎のものの考えかたがあったから進んだという感じが分かるようにしようかなと思っています。

この間、高梁方谷会の会長から 3 通目の礼状が来ました。高梁市役所からまた然るべきお礼状がいくと思いますという内容でした。レジュメどおりで喋らなくてごめんなさい。レジュメどおりに喋らないついでに、いつもの恒例の質問をいたします。

### 恒例の質問

酒井さんが来月のフォーラム前日にマイナス 35 度に向かって立つのですよね。ベトナムに今日行く人もいれば、来月にはマイナス 35 度に向かって出る。北極に行くのは、注射などしなくても大丈夫でしたか？

酒井—大丈夫です。入国カードも無いところなので。

そうでしたか。というのは、特に 11 月 12 月になると「来年の干支はどうなっていますか」と聞くでしょう？来月は酒井さんお休みと書いてあったから…ちなみに少しおさらいをしておきます。

平成 24 年の季刊誌『知足』に書いていたのですが、平成 27 年～30 年ずっと経済は冷や冷やの綱渡りでいくと書いてあります。今年の 1 月号に、今年の干支は戊戌だけど、今年も冷や冷やの綱渡りが続くでしょう。ただ、安倍さんが辞めるようになれば大きく変換する。オリンピックが開催されるかどうかはちょうどギリギリの段階に来ている。オリンピックがもしかすると出来なくなる。出来なくなる理由として、一つは人為的な災害が起きる。たとえば核戦争が始まる。それから二つ目は、大規模な自然災害が起きる。大規模な自然災害は、皆様ご存じのとおり日本で起きたものと同じように世界各国で大規模な地震が発生するでしょうし、この次に起きる大災害は現在起きているものとは比べ物にならないということでしょう。

今の時代は、西洋文明が衰退をし終焉を迎えて、次に東洋文明が大きく発展をし成長をしていくという大転換期にありますから、人類の歴史で見ても大きな転換期です。地球の状況から見ても、本当かどうかは分かりませんが、恐竜が滅んだ原因に大きな隕石が落ちて、それによって大災害が起きたという説もあります。そういう規模での、地軸がずれているという話がありますでしょう。地球そのものが大変な変革期を迎えている。したがって地球の規模での大転換期、大変革期。人類の規模は、とても小さく短いですが、人類の規模の中でも大転換期を迎えている。そういう時ですから、ひとつの国が無くなったり誕生したりすることは当たり前です。それで、大きな災害が起こったら、日本列島なんていうのはいつ消滅してもおかしくはないという状況になりえますから、願わくは自分が生きている間とか、自分の子供や孫の時には起きないで欲しいとは思いますが、これはもう神様のところだから分かりません。ただ、そういうことがあってもいいように用意しておかなきゃいけない。それで大災害があるとしたらどうするか。お水や食べ物はバックの中に入っていますか？移動する時は、飲み物や食べ物は必ず持っていてください。移動している時に、大地震がきたら動けない。あの時は自動販売機が動いたからいいけど、その自動販売機だって駄目になるかもしれない。だったら自分で水と食べ物は持って歩くのがよい。渡邊五郎三郎先生が東日本大震災の時に新幹線に乗っていて、地震が起きたから新幹線が止まって、線路を歩かされた。あの時は 90 歳過ぎだったと思う。線路をずっと歩かされたがために先生は足腰を悪くした。ということで、90 歳を過ぎても矍鑠としていくべきことは、足腰を鍛錬していること。それを是非おやりください。

来年は己亥（きがい）です。亥（いのしし）は爆発です。爆発という意味があります。これは酒井さんの顔が浮かんだ。どこに行っても爆発から逃れられないから、いま言ったものは全部一緒。人為的災害、自然の大災害、それにプラスアルファがどうも来年加わるだろうと思います。プラスアルファが起きてみないと何だか分かりませんが、干支からみ

れば、ここ数年間の中で来年はそういう危険性が最大です。来年の 1 月号にはそれを書くことにいたします。

## 恒例の質問

- ・今年が良い日が自分の身に続いたと思う方。  
主観で一昨日とんでもない酷いことがあっても今日良かった。そしたら当然良い日です。それを拡大解釈すればいい。
- ・今年は嘘をつかない日が多かった。  
心に咎めることがあっても、ふっと気にしない。嘘をつかないと決めればいい。会うたびに今日から禁煙という人もいますけど。まあ嘘をつかないが良いですね。
- ・今年是有難うと言ひ、有難うと言われ続けた。
- ・今年健康法ずっと実践している。
- ・自分磨きを今年は一生涯懸命した。
- ・昨晚、寝る時に今日は良い日だったなと思って寝た方。はい、手を挙げたままで、明日も良い日だったと、明日のことを過去形でイメージして寝た方。  
有難うございます。佐藤一斎が 70 歳で引退して、71 歳でもう一度、第二の人生をやりだしたら広がった。今回書く佐藤一斎の話の中に入れようと思います。

## 論語の視点（衛霊公第十五 24・25）

【二四】子曰く、吾の人に於けるや、誰をか毀り誰をか誉めん。如し誉むる所の者有らば、其れ試みる所有ればなり。斯の民や、三代の以て直道にして行いし所なり。

孔子が言うには、「吾の人に於けるや」私は人とのお付き合いのとき、誉めたり貶したりはしない。これは孔子がお弟子さんと問答かな、話す中で、これは良い人だなと思っても、いちいち言わない。だけど駄目だと思ふのも言わない。でも言っていますけどね。杖で脛引っ叩いたなんてことが残っているわけだから。それで「如し誉むる所の者有らば」褒め

て良いなと腹の中で思ったら「其れ試みる所有ればなり」これ文章的に変なのですが、自分の心で納得をした。ここは先生方の解釈はまちまちですが、私はまちまちを取りません。自分の心の中で納得すれば褒める。この場合の「斯の民や」は、孔子の故郷で住んでいる人達は三代の時代から（夏・殷・周という）素晴らしいと思った時代の良い風俗、習慣がまだまだ残っている。「直道」は、人間として真っ当な道を一生懸命に継続し続けている人たち。考えてみれば最近テレビで健康長寿の村というのをよくやっていますが、農家の人たちが生活をしていることで足腰を鍛えるから健康長寿が多い。同じようなもので、そういう風土の中で生まれ育った人は自然と知らず知らずの間に身につけている。

孔子の故郷の人たちは、そういう雰囲気の中で生活しているから今も素晴らしいし、良い場所だというもの腹の中にあるとこういう表現になる。この理解のほうが分かりやすいと私は思います。

**【二五】子曰く、吾猶史の闕文に及べり。馬有る者は人に借して之に乗らしむ。今は亡きかな。**

これも同じようなもので、先生方の説明は色々あります。孔子が言うには、「史」は歴史を記録する役人。その役人が書いてあるものが所々抜けている。抜けているものは、もう分からないから無理に想像して書きなさんな。これも説明するのに「馬有る者は人に借して之に乗らしむ」馬があれば馬に乗るのに、馬が無いから他で借りて乗る。今は人情が薄くなったから借してくれるような人はいないねという感覚で見ればよい。

学者は色々な表現をしていますが、解釈は人によって幾らでもあるところが面白い。

## テーマ「自戒（三戒・二学）」

「少にして学ばばすなわち莊にしてなすことあり。莊にして学ばばすなわち老いて衰えず。老いて学ばば死して朽ちず」という言葉があります。

佐藤一斎顕彰会の会長さんと話していて、私が「どうしても死して朽ちずが、なかなか説明しづらいが、最近ご本人の文章の中で、これで良いと思ったのがありました」と言ったら、教えてくださいという話になりました。色々な解釈はありますが、ようは著述をすること。本に書いて残せば死んでも後世に名前が残ります。

いま猪瀬理事長が何か書き出していることは良いことです。書いた物が残るのが一番良い。余分ですが、絵で描くのも良いのだけれども、本当の自分がここに表われていないのではないかと感じます。そのときの体調で良いときもあるし悪いときもある。だから自分の書いた物が後世に残るから良い。ご本人は言っていないけれども、繋ぎ合わせるとそういう理解になる。

それから「二学」これは学問をするとき、物事を学ぶには有字の学問。有字の書を読むこと。字が書いてある物です。もう一つは無字の書を読むこと。字面を読まない、字の奥を読む。それから体験を積み重ねる。この二つをおやりなさいということです。

## 紹介書籍

『言志録講話』山田準著 明德出版社

『言志録講話』の中で見ると、「嘘をつくな、約束を守れ」と言い続けています。

## 時事評論

今日の読売新聞の一面ですが、「太陽光買い取り減額」こういう見出しを読みますと、消費者の費用負担を抑えつつ長期的に稼働を促す狙いがある。何か政府がやっていることはとても良いことやっていると、新聞が政府に対して忖度をして迎合してよいしょをしている。新聞は書きかたをちょっと変えるだけで印象がガラッと変わる。何で、おもねった文章ばかり書くのかと最近は特に思います。別の紙面を読んでいけば、買い取り価格は当時40円で、今は18円。最初は40円で集めておいて、今は18円になっている。嘘つきだと思えます。国は税金で国民の富を篡奪している。

新聞の読みかたは何回か申し上げています。10年ぐらい前はしっかり読みましようと言っていました。それから段々変わって、現時点では基本的に新聞は信用をしていません。自分の心にちょっと引っ掛かる文章があったら、自分で調べる。自分で調べるヒントが新聞にはありますからという言いかたに変わりました。先ほどの無字の書を読む、有字の書を読むに繋がります。有字の書を読むというのは、分かりやすい。分かりやすいというのは、誰が見ても嘘つきだと思えるような文章を書くようにしている。5年ぐらい前は、この人は何を言いたいのかということをしつかり読んでよく考えないと忖度だとか嘘つきだとかはありました。5年ぐらい前は、同じ見出しと中の文章が正反対みたいなことも平気で入っていました。正反対のことは、だいたい後ろの一番下の小さい囲み記事に書いてありました。だんだん新聞が売れなくなってきたから良心が麻痺をして質が落ちた。

こちらは「米中摩擦 G20 限界」という見出しが出ていました。写真が出ておりません。写真は意識してカットしたのかどうかは分かりませんが、中身は迎合記事です。書いてある物を読んだだけでは分からない。ただ一般の人が見るときには嘘つきか、嘘つきではないか。誰がこの記事によって利益を得るのか。それだけ見ればいい。もしもそのヒントがピンとこなければ、これによって具体的にお金はどれだけ動いているのか。それは誰の懐に入るのかと思いつつ新聞を読んでいくと見方がまるで変わってきます。だからヒントが新聞には詰まっている。そうすると、書きかたが確信犯の嘘つきと、確信しない嘘つきが新聞の一面記事に表われている。

最近楽しいと思った広告で樹木希林が書いてありました。樹木希林の一生というのは実に楽しいかと、この広告を見た瞬間に浮かんできた。お寺を自分で事前に確認に行ってみたいですね。葬儀に 1500 人ぐらい来たのかな。香典は一律 3000 円。それも悪くない。全身癌というニュースがあってから、気になってこの人の動きは見ていましたが、これは映画の広告だけれども広告というのは意外とおやっと思えることが書いてある。

それでこれは、「宮田浩喜さん 85 歳の再審開始を認めた福岡高裁の決定を指示した」とあります。これ国家が嘘をついたって言葉がいいかどうかは分からないけれども、少なくともこの文章を見る限り、検察側が証拠を隠して出さなかった。証拠を出していれば、たぶん無実で終わっていたのではないかみたいな解説があり、これも自分で調べなければなと思います。けれどもどこかで天網恢恢疎にして漏らさずという言葉が出てきたなど、これで見えました。

それでこの紙面では 10 連休か。何でこんなに休みばかり増やすのか。日本人が日本人で無くなるように無くなるようにしている。元々の労働観が他の国とは違います。日本人は働くことは良いことだと思って育ってきました。継続して育ってきた民族なのに、労働することは罪であるという外国の労働観を植えつけようとしている。こいつは悪いことをしたから処罰の意味で労働をさせる。西洋の労働観と東洋の労働観は相反します。そういうことを理会しないとイケません。とにかく国民に迎合し続けている。

昔から新聞を好きでよく読む人は、そのとおりに読んでもいいが、新聞その他、ネットもそうですが、見る場合はくれぐれもヒントがそこに転がっている。真実かどうか自分にとってなるほど、これは自分の心を磨く上で役に立つ。日本の国はこうなるべきだ、こうすべきだと、何かそういう真つ当な道を思う場合は、そこからヒントを得て自分で調べる。自分で調べなければ分からないです。

こっちの広告で締めくくります。樹木葬、永代供養墓、管理費維持費一切不要、家族に負担をかけないお墓。マイクロで見ます。

自分が死んだ後、子や孫に迷惑をかけないでお墓を作る。昨日、仏像の中に自分の骨が入るといのはとても安心、嬉しいということが紹介されていました。マイクロで見た場合にはお金をかけない、次に迷惑かけない。

さて、日本のお墓は縄文時代から眺めてどうだったのかな。歴史的に物を見る必要がある。そうすると、他の国々の墓はどういうのがあるのだろうか。どこに埋葬されているのか。埋葬は土葬なの火葬なの、または鳥葬なの。色々な葬式があります。その民族によって考えかたが色々違うのではないかと、広告からどんどん話が広がっていきます。ここは、お金をかけないという物の見方から、中斎塾フォーラムのスタート時に言ったことは、世

の中は通貨が無くなりますと言いました。10年前に現金が使えない時代に入りますと言いました。その内容は10年前、大きい文明の転換期で考えたときに人類は通貨、金という物を発明したけれども、そのお金の仕組みはすでに終わってしまっている。終わってしまっているけど、その機能を継続するものは何かこれから出てくる。現金はこれから使えなくなるというのを10年前に申しました。最近の広告を見ますと、通貨は終了。通貨が無くなりますという見出しが出るようになりました。やっぱり10年経つと世の中どんどん変わってきたなと思います。それでさっきのタクシーのお金の払いかたに繋がって終わりです。有難うございます。